


後醍醐天皇と児島高德の伝承の地
院庄館跡(児島高德伝説地)

指定区分	国指定史跡
読みかた	いんのしょうやかたあと(こじまたかのり でんせつち)
所在地	津山市神戸(作楽神社)
指定年月日	大正11年3月8日
解説	鎌倉時代から室町時代にかけての美作守護職の居館跡。元弘2年(1332)後醍醐天皇が隠岐へ配流された際、児島高德が天皇を慕って桜の幹に十字の詩を記したという伝承の地として有名である。明治2年には館跡の中央部に作楽神社が創設された。
アクセス方法	JR院庄駅から車5分・徒歩約20分 / バス「作楽神社前」より約400m
公開状況	自由
設備	駐車場 
備考	

きつずページ

していくぶん (指定区分)	国指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	院庄館跡(児島高德伝説地)
よみかた	いんのしょうやかたあと(こじまたかのりでんせつち)
しょざいち (所在地)	津山市神戸(作楽神社)
していつひ (指定した日)	大正11年3月8日
せつめい	鎌倉(かまくら)から室町(むろまち)の時代(じだい)にかけて、美作(みまさか)で守護(しゅご)という、当時(とうじ)の警察(けいさつ)のような役(やく)の人が住(す)んでいました。その館(やかた)の跡(あと)です。後醍醐天皇(ごだいごてんのう)が島流(しまなが)しされる時、つかえていた児島高德(こじまたかのり)が、ここの桜(さくら)の幹(みき)に10文字の詩(し)をかいたことで有名(ゆうめい)な場所(ばしょ)です。